

巻 頭 言

RISTの新たな発展を期待する

(財)高度情報科学技術研究機構 顧問
村上 健一



今年、2011年は、財団法人高度情報科学技術研究機構が、その前身である原子力データセンター(NEDAC)として設立されて以来30年の節目を迎える。折しも昨年末、東京事務所を10年住み慣れた中目黒の地から北品川に移し、未だ段ボールに囲まれつつも清らかな気持ちで新年の業務を開始することとなった。そして本年秋には法人改革に対応して、現在の特例民法法人から一般財団法人への移行申請を計画している。順調に行けば、30周年の節目に新たな一般財団法人高度情報科学技術研究機構(RIST)が誕生する。

改めて述べるまでもなく、RISTが行っている仕事は主として、原子力・核融合をはじめ巨大科学分野におけるシミュレーションを用いた研究開発とその支援、高性能シミュレーションを可能とする先進的大型高速コンピュータの効率的運用、ユーザの支援、情報セキュリティの確保であり、まさに時代の最先端を行く分野を担っている。長い歴史の中で蓄積され育ってきた人材の高い能力を生かし、今後ともこの先端的分野で創造的な仕事をし、科学技術の進歩に大いなる貢献を果たしてほしい。

我が国の大型計算機環境は現在、大きな変貌を遂げようとしている。日本原子力研究開発機構の大型計算機をはじめとするペタフロップス級のマシンが続々導入され始めている。そして、地球シミュレータに続く我が国の中核コンピュータとして理化学研究所が、世界最高速性能を目指した「京」計算機の建設を進めている。

「京」計算機の建設は順調に進んでおり、近々部分的に運用を開始し、その性能確認やソフトウェアの調整が実施される予定であると聞く。「世界一が必要か、二番ではだめか」との指摘を受け議論を巻き起こした「京」は、必ずやハードウェアとしての高い能力を実証するとともに、その抜群の計算性能を生かして優れた科学技術的成果を生み出すこととなろう。優れたハードウェア性能を生かし切るためには言うまでもなく、必要なソフトウェアを高度に適切にチューニングしなくてはならない。RISTは、地球シミュレータや大型計算機システムの運用ソフトウェアの高速化・高性能化などに長年の経験と蓄積があり、「京」においてもその能力が必要とされる場があるものと確信している。

RISTには、これまでに育まれた人材、組織力、高度な技術力など、まさにソフトウェアの膨大

な蓄積がある。今後とも、中長期的展望に立った事業見通しを踏まえ、人材の育成を継続するとともに、その実力を生かして「京」の支援・活用を含む事業の新しい展開を図り、我が国の科学技術の発展に貢献していくことを期待する。